

Title	資産担保型証券 (ABS) の信用リスク分析における課題-投資家の観点から-
Sub Title	
Author	大澤和浩(Oosawa, Kazuhiro) 大林厚臣
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1998
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1998年度経営学 第1415号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001998-1415

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	大林研究会	学籍番号	89728176	氏名	大澤 和浩
(論文題名)					
資産担保型証券 (ABS) の信用リスク分析における課題 - 投資家の観点から -					
(内容の要旨)					
<p>最近注目を集めている資産担保型証券 (ABS) は、資金調達者にとっては資金調達手段の多様化をもたらし、投資家にとっては投資対象の拡大等のメリットがある。さらに日本の金融市場にとっても、間接金融型から直接金融型への移行という大きな流れと整合的である。こうした様々なメリットを十分に享受するためには、ABS市場に多くの投資家が参加して、厚みのある市場に発展しなければならない。</p> <p>しかし、ABSはその商品構造の複雑さなどから、他の金融商品に比べて審査コストが大きく、信用リスク分析が容易ではない。これが投資家の負担となり、普及の足枷となる可能性がある。</p> <p>審査コストの問題の解決策としては、格付の利用が考えられる。確かに格付は審査コスト低減効果を持つものの、格付に依存した投資行動は健全といえず、問題が残る。</p> <p>合理的かつ健全性のある審査コスト低減策としては、保証付ABSの活用が最も効果的である。これは担保の持つ審査コスト削減効果に着目したもので、ノウハウ面が十分とはいえない投資家層には、とりわけ有効性が高い。また本論のモデルでは、ABSのような審査コストが大きい商品ほど保証が成立しやすい条件にあることが確認されることから、この提言は実現性のあるものといえる。</p> <p>一方、相対的にノウハウを蓄積した投資家については、保証が成立しにくくなることが確認されるため、より根本的な審査コスト低減策が必要となる。その解決策とは、情報収集コストを削減させるためのディスクロージャの充実と、分析コスト低減のための Master Agreement の作成である。</p> <p>これらの解決策によって審査コストの問題は大きく解決し、投資しやすくなる環境が整うため、ABSの普及が促進されると言える。</p>					